

スイートコーン黄色種『ミエルコーンE』の特性と栽培のポイント

雪印種苗(株)

園芸作物研究グループ

野菜研究チーム 広瀬 慶多



▲『ミエルコーンE』の栽培風景

1. はじめに

一般的に春播きのスイートコーン栽培は2月に九州から始まり、次第に東日本へと産地が移動、5月からは大産地の北海道で作付けが本格的となります。品種の選定にあたって早生種の方が初期生育良好で低温での生育も期待できるため、特に早い作型では早生種を中心とした品種構成となっています。

弊社ではこれまで青果用の黄色種として『ミエルコーン』を販売していましたが、この品種は生育のやや遅い中早生種であり早期出荷を求める産地の要望には十分お応えすることができませんでした。このたび、新発表いたしました『ミエルコーンE』は早生種であり、なおかつ穂重も期待できる新品種です。今回は『ミエルコーンE』の特性および栽培のポイントについて紹介いたします。

2. 『ミエルコーンE』の特性概要

◎早播き～適期播きに最適な83日タイプの黄色早生種。

◎草丈が低く、稈が太い。耐倒伏性に優れる。

◎穂径が太く、ボリューム抜群。食味に優れ果皮は軟らか過ぎずしわが出難い。

『ミエルコーンE』の品種特性

①早晩生

早生で標準日数では83日、北海道など冷涼地では97日程度で収穫できます。

②草姿および草勢

草丈は160cm程度と低く、稈も太く耐倒伏性が強い特性があります。分けつは少なめです。発芽は良好で、生育初期から生育揃いが優れるため、常に安定した栽培が可能な非常に作りやすい品種です。

▲草姿、短稈で倒伏に強い
『ミエルコーンE』

③穂の特性

包皮は濃緑色でかぶりが良好、しまりも作型を問わず良好なため高温期の栽培でも穂先露出の心配がありません。穂長は19cm程度と若干短めですが、穂径は5.5cm程度と太く穂重がで

やすい穂形です。穂重は420g以上とボリューム抜群で、促成栽培でも肥大しやすい特性があります。先端の稔実は比較的良好です。列数は18列を中心です。粒色は濃く、照りがあります。

▲穂径が太く、ボリューム抜群な
『ミエルコーンE』

④食味

早生種としては甘味が強く、食味は良好です。果皮が軟らか過ぎないため、流通段階でしわが出難い傾向があります。

3. 『ミエルコーンE』栽培のポイント

1) 適作型

本品種は初期生育が良好な早生種で、各作型で安定した栽培適性を示します。低温での雌穗肥大が良いことから促成栽培でも特性を発揮しますが、過度の早播きは短穂など生育不良の原

表 品種比較試験成績(2011年)

No.	品種	生育日数	草丈	着雌 穂高	穗重 皮付 剥皮 g/本	穗長 全 不稔長 cm	穂径 cm	列数 cm	甘味 9=甘 9=軟	果皮 硬さ 9=良 9=軟	耐 倒伏 9=強 9=良
○トンネル栽培(3月10日播種)											
1	ミエルコーンE	100	160	58	470	365	18.5	0.5	5.4	18.0	7.0
2	他社品種A	102	167	43	418	330	19.0	0.0	5.0	18.0	6.0
○マルチ栽培(4月15日播種)											
1	ミエルコーンE	83			400	285	18.5	0.5	5.4	17.0	7.0
2	他社品種A	84			338	255	18.3	0.5	5.0	17.0	7.5

表 品種比較試験成績3カ年平均値(2009～2011年)

No.	品種	生育 日数	草丈	着雌 穂高	穗重 皮付 剥皮 g/本	穗長 全 不稔長 cm	穂径 cm	列数 cm	甘味 9=甘 9=軟	果皮 硬さ 9=良 9=濃	包皮 色 9=白 9=濃	旗葉 9=大 9=良	耐 倒伏 9=強 9=良
○トンネル栽培(4月下旬～5月初旬播種)													
1	ミエルコーンE	93.0	154	34	362	256	16.4	0.8	5.2	15.4	7.2	6.2	7.0
2	他社品種A	93.3	170	41	351	255	17.7	0.5	5.0	16.1	7.5	6.7	6.9
○マルチ栽培(5月10日前後播種)													
1	ミエルコーンE	100.3	182	45	401	288	17.1	0.6	5.3	17.3	7.0	5.5	7.0
2	他社品種A	100.7	186	42	341	258	17.5	0.2	5.0	16.2	7.3	7.0	6.9

因となりますので避けてください。短桿でハウス栽培にも適しますが、幼穂形成期および雄穂抽出期以降の圃場乾燥には注意してください（過乾燥で受粉不良の可能性あり）。各地域での播種適期と予想収穫期は別表のとおりです。

本品種は収穫期が高温となる作型でも利用可能ですが、マルチ後半作型以降は従来の『ミエルコーン』の方が肥大は期待でき、収穫時期の集中は回避しやすくなります。播種時期など状況に応じて両品種を使い分けることが安定した出荷作業につながります。

近年、関東や西日本では晩夏に播種をおこなう抑制栽培が増えつつあります。抑制栽培は熟期が遅く旺盛に生育する中生以降の品種が使われてきましたが、早播きでは草丈が伸び過ぎることがあり、成熟期は一転して気温が下降するため収穫に至らない可能性があります。本品種は草丈が伸び過ぎない早生種であり、包皮のしまりも良好で、抑制栽培においても穂先が露出し難いため歩留りの良い特性を持っています。

● 促成栽培と播種時の留意点

スイートコーンの栽培にあたって最も重要なポイントが初期生育です。本品種は初期生育が良好な品種ではありますが、促成栽培では品種の能力以外にも耕種的な対策が必要となります。発芽を揃え、根張りを促し、初期生育を確保することで高品質での収穫が期待できます。播種にあたっては、播種1週間前ころにマルチ被覆をおこなうなど地温および適度な土壤水分を確保することが最も重要です。また根張り強化には弊社販売の植物活力資材『ねぢからアップ』の利用も有効です。

2) 圃場準備と播種

● 肥培管理

施肥設計は各地域の早生品種標準とします。肥料やけを起こさないように窒素肥料はカリとともに分施として、全量のうち60～70%を元肥として施用します。地温が低く、肥料が効きにくい作型ではやや多めとします。

▼『ミエルコーンE』の施肥例 (kg/10a)

作型	元肥			追肥
	窒素	リン酸	カリ	NK化成(ロングで対応可)
トンネル	15～18	28	15～18	窒素、カリ 7
露地マルチ	14	24	14	窒素、カリ 6
露地	12	24	12	窒素、カリ 6

● 栽植密度

本品種は肥大が良好なため特に疎植にする必要はありませんが、大型の穂を安定して収穫するには3,800～4,000本/10aを目安とします。

● 播種と間引き

本品種の発芽は良好ですが、播種期の気候は不順であることが多いため2～3粒播きとして欠株を防ぎます。本葉2～3枚期に生育の揃った株を残すように間引いてください（生育が早過ぎる株と遅い株を間引く）。

3) 生育期間中の管理

● トンネル管理

急激な気温上昇に注意し、換気をおこなってトンネル内が35°C以下になるように管理してください。幼穂形成期の干ばつ・低温・高温などの環境ストレスは、後の雌穂成長に影響を及ぼします（短穂、副房、粒列乱れ、先端不稔など）。特に幼穂形成期の低温ストレスは短穂の原因となりやすいので、トンネル資材の除去は早過ぎないように注意します。

● 追肥

大型穂の確保、先端不稔防止のため

にも追肥は必ずおこなってください。追肥は2回に分けて施用するのが有効で、1回目は本葉6枚期頃（幼穂形成期）、2回目は雄穂抽出期としてNK化成肥料でおこないます。通路に葉が茂り雄穂抽出期での追肥がどうしても困難な場合（葉を痛める危険がある場合）は、薬剤防除に合わせて液肥の葉面散布で対応します（雄穂抽出期および開花終了後の2回）。

4) 収穫

収穫の目安は絹糸抽出後22～24日程度（冷涼地や促成栽培では25日程度）ですが、絹糸抽出後の積算気温によって変動しますので作型やその年の天候によって前後します。収穫期が近くなったら試し穂りをおこなって先端の粒色と粒の張り具合の確認および食味判定により適期を判定してください。

本品種は早生種であるため収穫期間がやや短めです。収穫期間の幅は収穫期の外気温によって異なりますが概ね3日程度です。高温期収穫の作型では収穫適期は1～2日程度しかありませんので穂り遅れには特に注意が必要です。

本品種は糖含量が高く、果皮にしづが出難い品種ではありますが収穫以降の品質劣化を最低限に抑えるために早朝収穫や出荷前の予冷など従来どおりの管理を心がけてください。

4. むすび

以上、スイートコーン新品種『ミエルコーンE』の特性と栽培のポイントについて紹介させていただきました。本品種はすでに販売開始されており、各産地で一部導入が進んでいます。初期生育の揃い、安定した作りやすさについては特にご好評いただいている。

弊社は『ピュアホワイト』や『グラビス』など、『ミエルコーン』以外にもバラエティーに富んだスイートコーン品種を揃えております。今後とも弊社のスイートコーンをよろしくお願ひいたします。

▼『ミエルコーンE』の作型表

